

## 功 勞 賞



堀山志朱代 氏 [武庫川女子大学薬学部, 博士(薬学)]

堀山志朱代氏は1985年3月に武庫川女子大学大学院修士課程(薬学研究科)を修了後、同年4月より武庫川女子大学助手として奉職した。武庫川女子大学薬学部分析センターに所属し、質量分析装置、核磁気共鳴分光装置、元素分析装置を担当し、同学部の研究活動を支える分析関連業務を担うこととなった。

堀山氏は武庫川女子大学薬学部が二重収束型質量分析装置 JMS DX-303 (JEOL) を設置したことを機に質量分析に携わるようになった。その後、1995年3月に飛行時間型質量分析装置 VISION2000 (Finniganmat) および三連四重極型質量分析装置 TSQ-7000 (Finniganmat), 2002年10月に JMS DX-303 の後継として逆配置の二重収束型質量分析装置 The MStation JMS-700 (JEOL), 2003年2月に四重極型質量分析装置 Automass SUN (JEOL), 2003年11月には VISION2000 の後継として AXIMA-CFR PLUS (Shimadzu/KRATOS) の、2004年11月には三連四重極型質量分析装置 Quattro Premier (Micromass) が導入された。長年にわたりこれら多種多様な質量分析装置を用いた解析を一手に担ってきた。その過程で数多くの創意工夫を積み重ね、質量分析法が薬学研究においていかに重要かつ有用であることを示してきた。

日常業務である質量分析・核磁気共鳴分光・元素分析の依頼分析、装置の維持管理、教員・学生に対する技術指導などの主たる業務のほかに、質量分析関係の学術集会にも数多く参加し、日々の測定に最新技術を積極的に還元してきた。この過程で、故 小泉京子教授(武庫川女子大学薬学部)の糖類の研究において、故 鈴木真言教授(名城大学薬学部)の指導を受け、高速原子衝撃イオン化質量分析法を用いることで分岐シクロデキストリンの分岐位置およびメチル化位置の分析に役立つことを示した。それらの学術的な知見を、質量分析総合討論会や本学会誌に学術論文として発表した。また高山光男博士らとの共同研究により、電子イオン化および高速原子衝撃イオン化質量分析法における O-アシルオキシム誘導体の分解および還元に関する研究や、液体クロマトグラフィー質量分析法および核磁気共鳴分光法を用いたヒドロキシルアミン類からオキシムへの酸化に関する研究を論文として発表し、2004年3月、博士(薬学)の学位を授与された。これらの業績を含め、質量分析学および薬学関係の学術誌に計8報の論文を発表している。

堀山氏は本学会の運営にも積極的にかかわり、学会の発展に多大な貢献をしている。1999年5月に吹田で開催された第47回質量分析総合討論会の運営協力委員として、さらに2002年5月の第50回(京都)、2006年5月の第54回(豊中)の質量分析総合討論会の実行委員として尽力した。BMS コンファレンスにおいても、2000年7月の第27回(神戸)、2003年の第30回(淡路島)、2006年の第33回(大津)で実行委員として運営に携わった。また、本学会主催の質量分析講習会では、2003年11月の第14回から、2004年6月の第15回、2004年11月の第16回、2005年6月の第17回までの4度の講習会において基礎コースの講師を務めた。

以上のように堀山氏は、長年にわたるたゆまぬ努力と創意工夫により質量分析技術の進展や質量分析の普及、日本質量分析学会の発展に大きく寄与してきた。よって、2008年度日本質量分析学会功労賞に相応しいと認められた。

(日本質量分析学会表彰委員会)